

みやこんじょ



No.46

発行日 2017年1月1日

発行 独立行政法人国立病院機構
都城医療センター
宮崎県都城市祝吉町5033番地1
TEL 0986-23-4111

基本
理念

高度で良質な医療を提供し、病む人々が安心して、信頼できる病院をめざします

新年のごあいさつ

院長 冷牟田 浩司

新年あけましておめでとうございます。

昨年7月に都城医療センターに赴任した私にとりまして、都城で迎える初めての新年です。今までの新年とは自ずと一味違う心新たな気分になっています。

この半年間、慣れないことばかりで右往左往の日々の連続でした。根っからの方向音痴のためにいまだにナビシステムなしでは市内も車を走らせることができません。今年は是非、方角見当識障害を是正して龍馬ゆかりの霧島連山、日本三大灘の日向灘、風光明媚な日南国定公園、そして島津藩の文化遺産などなど、南九州のすばらしい名勝地を訪れる余裕ができればいいと思います。しかし、風雲、急を告ぐ医療界の動向の中、そんな段ではないかもしれません。

いよいよ、2025年のカウントダウンの鐘の音が大きくなってきました。団塊の世代が後期高齢者となる2025年、想像するだけで身が引き締まる思いです。「医療から介護へ」、「病院から地域へ」と地域包括ケアへのパラダイムシフトが一直線に進んでいます。昨年末、各都道府県の地域医療構想がおおむねまとまりました。宮崎県の地域医療構想も昨年10月に公開されました。2年前に始まった各施設の病床機能区分の報告制度で収集されたデータから、2025年での地域の必要病床数、居宅医療の必要量が想定されたわけです。都城医療センターが属する都城北諸県医療圏では、2014年の現存総病床数2,767床が2025年には必要総病床数1,911床に減少すると想定されています。さらに高度急性期・急性期医療の必要病床数は約半分に減少するであろうと推定されています。一方で、在宅医療等の必要量は2,184人/日に膨らんでいます。

この需要構造の変化に基づき、高度急性期から在宅医療に至るまで一連の病状に応じて適切な病床が確保されることが必要です。そのために地域全体の共通認識のもとで一層の病床機能の分化・連携、役割分担の議論が必要になってくるでしょう。都城医療センターもその議論に積極的に参加し、求められる役割を果たすつもりです。

今年の干支は酉です。果実が成熟の極致に達した状態を意味するのだそうです。酒熟して気の漏れる象、事業を進めるには格好の「酉」年とされています。昨年に増して精進しようと闘志を燃やしています。

さて、昨年11月26日に当院附属看護学校が創立70周年を迎えました。

都城医療センターは明治42年創設の都城衛戍病院から幾多の変遷を経て、昭和20年に国立都城病院として再出発していますが、昭和22年、全国の17国立病院に併設して設立された甲種看護婦養成所の一つとして開校しました。戦後の混乱期に食糧難の中で公職の判事が配給米のみの食生活を厳格に守り通し、栄養失調で命を落とすという事件もあったそうです。そんなどん底の国民の健康状態の中、病院と苦楽を共にした附属看護学校が歴史を刻み、昨年4月入学生がついに70回生となりました。多くのご来賓を迎えて記念式典、映画「風に立つライオン」のモデルになられた柴田紘一郎先生のご講演、300人を超す祝賀会が盛大に開催されました。

この70年間に送り出した卒業生は2,435名に上り、卒業生は県内外で重要な看護職の他、学校教育職、大学教授、保健行政職として幅広い分野で活躍されており、教職員、在校生の大きな誇りであります。未曾有の医療大改革が進む中、看護師の卒前教育も変革が求められていますが、医療・看護の原点は患者への愛であることを胸に秘め、時代に即した高い水準の教育と共に人間愛に富む看護師を育成し続ける学校であるように努めたいと思います。

昨年上半期をもって、老朽化著しかった旧病院施設は病棟、外来、駐車場整備のすべてが終了し、清潔で効率的な医療を提供できる最新のインフラ環境が整いました。新設なったインフラに恥じないよう、地域がん診療連携拠点病院として、また県西地区および鹿児島県大隅地区の高度周産期医療を一手に引き受ける地域周産期母子医療センターの両輪を中心に地域の急性期医療での役割を果たせるように職員一同、前向きに行動し続けたいと思います。当院の基本理念「高度で良質な医療を提供し、病む人が安心して信頼できる病院をめざします」とおり、地域に貢献できる医療を引き続き提供し続けるように、そして地域の皆様に「この病院で診てもらって本当によかった」と振り返っていただけるように、職員一同、本年も努めてまいります。

本年もよろしくご指導、ご鞭撻をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。



小児科の紹介



周産期・母子医療副センター長
新生児集中治療室長
横山 晃子



小児科
平島 要



小児科
山下 貴大



小児科
斐 孝俊



小児科
横山 知美

小児科では、一般小児科、新生児疾患など小児に関する内科疾患を幅広く診療しています。

昨年度は832人/年の入院があり、うち新生児が221人/年でした。

病棟編成のため昨年度より小児科が1病棟（1階）から2病棟（2階）へと引越し、ようやく患者様にも周知されてきました。2病棟では、一般小児科に加え、在宅医療や基礎疾患のため定期的に様々な診療を要する患者様の急性期も対応しております。低身長をはじめとした内分泌負荷試験は入院・外来どちらでも対応しております。

昨年はマイコプラズマ肺炎が全国的に流行しましたが、当科でも多くの患者様が入院されました。本疾患に有効と思われるマクロライド系抗菌薬等を投与しても高熱と激しい咳嗽が続き、ステロイド剤投与まで必要になる患者様も見られました。また、ここ数年毎年流行しているRSウイルス感染症による細気管支炎、肺炎ですが、特に生後間もない赤ちゃんや基礎疾患がある児では悪化しやすく、人工呼吸管理を行った患者様もありました。

外来のほうでは、昨年度より宮崎大学と熊本大学の協力のもとで、内分泌疾患と先天代謝異常症疾患の専門外来を月1日行っています。これまで宮崎市内をはじめ熊本や鹿児島まで通院されていた患者様が当科で専門医の診察を受けることが可能になりました。

また先日ご紹介の通り当院の外来棟がリニューアルされましたが、建物が新しくなっただけでなく、医療ガスや吸引の数を増やすなどの設備対応も行い、隔離室も整備しました。院内を通らずに外から直接隔離室に入ることができますので、ご紹介の際には事前にご連絡いただけますと送迎ルートを含めてご案内いたします。

新生児疾患は、在胎26週以降の早産児、および外科治療を要さない新生児を対象としています。急性期や嚴重な全身管理を要する新生児は、まず、NICU(Neonatal Intensive Care Unit)に入院し、落ち着くとGCU(Growing Care Unit)に移動します。以前は常に満床を超える状態でしたが、昨年度よりGCUが6床から12床に増床され、スタッフの増員や拡張工事が行われました。拡張にあたりこれまで窓越し面会を行っていたスペースが病室になりましたので、ご両親以外のご家族の面会ではやや不便をおかけしておりますが、スタッフがご案内するまでご家族用の待合スペースでお待ちいただければと思います。

NICUではほとんどの赤ちゃんが何らかの呼吸管理を要します。新生児、特に早産児では人工呼吸器や酸素投与などによる肺損傷が大きな問題であり、超未熟児では就学以降もその影響が残るといわれます。さらに過剰な酸素投与は未熟児網膜症の悪化要因の一つともいわれることがあります。このため、酸素投与量を減らし、早期に抜管することは非常に重要です。当科では、これまで早期抜管後にnasal CPAPで呼吸管理をおこなっていましたが、一昨年度よりハイフローセラピーの使用頻度が増えています。これは高流量高加湿の酸素を鼻孔より投与する呼吸管理法で、成人ではすでに広く使用されていますが、新生児疾患でも効果が期待されています。またnasal CPAPと比べて身軽であり経口哺乳が可能なので、抱っこなどのスキンシップや授乳がしやすく、治療上の有益性だけでなく赤ちゃんのご家族の愛着形成にもよいと考えています。

従来から行われている診療方の質向上に加え、新しい診療技術や方法も取り入れていきたいと考えています。

市民フォーラムが開催されました

平成 28 年 9 月 17 日、都城ウエルネス交流プラザで第 7 回がん市民フォーラムを都城市及び都城保健所との共催で開催しました。今回のテーマは「命の大切さ～がん検診のすすめ～」としました。会場の入り口に健康相談ブースを設置し、消化器内科医師、産婦人科医師、耳鼻咽喉科医師による健康相談、がん相談、お薬相談、栄養相談とフォーラムの開始前の時間を有効に利用しました。オープニングセレモニーは祝吉中学校の吹奏楽部によるブラスバンド演奏で 2 曲の対照的な演奏曲により、力強くかつ癒しの時間を共有しました。

講演では当院の統括診療部長の後藤又朗先生による「胃がん検診の勧め」、泌尿器科医長山崎丈嗣先生による「前立腺がんの検診・治療」、産婦人科医長徳永修一先生による「婦人科の癌検診」とそれぞれの専門医に話をしてもらいました。聴講者からは「がん検診の必要性を感じ、検診に行きたいと思った」や「早期発見による早期治療について認識できた」などの感想がありました。

特別講演は東京医科歯科大学病院血液内科特任助教の坂下千瑞子先生による「少しの勇気を笑顔に変えて」というテーマでお話をいただきました。坂下先生はアメリカ留学中の 2005 年に背骨に腫瘍が見つかり帰国して手術を受けられ、以後 2 度の再発を経験され、現在もがんと闘っておられます。がんになって、患者の立場からの医師との関わりやがん患者を支える家族の存在、家族との時間の過ごし方など様々なことを考え体験されました。がん患者としての治療の様子や家族の協力などの映像を観ながら、会場のあちこちで聴講者の涙ぐむ場面を目にして胸が熱くなりました。坂下先生は現在、がん患者と医師という両者の立場の体験を活かし、患者支援チャリティーイベント「リレー・フォー・ライフ」に精力的に取り組まれています。今回、もし、がんを患っても笑顔で過ごしていける勇気と元氣と希望を、先生には教えて頂きました。

(地域医療連携室 鳥丸章子)



緩和ケア研修会を開催して

当院は地域がん診療連携拠点病院として、毎年医師向けの緩和ケア研修会を開催しております。10月9日、10日に開催し、タイトなプログラムでしたが13名の方が研修修了されました。本年度は驚くことに募集人員12名のところ20名の申し込みがあり、緩和ケアへの関心の高まりや診療報酬の改定なども後押しとなっていることが伺えました。この研修会は講義に加えロールプレイによりコミュニケーションスキルを実践的に学び患者役など疑似体験することで、日々の診療に活かせる内容になっています。また、本年度から基本プログラムに地域別で新しい学習項目を追加することとなり、宮崎県は倦怠感の講義を追加しました。患者様の声を研修会に活用することも追加され、当院で開催されています「あのねの会(患者会)」の皆様にご意見を伺い、先生方には「頑張って」ではなく、「頑張っているね」と声をかけてほしいなど、患者様の生の声を研修会の内容に加えしました。受講された方からは「興味深く学ぶことができた」「初めてロールプレイを行い疑似体験ができて大変勉強になった」「様々な診療科や病院の先輩医師の話が聞けて有意義だった」など好評を得ることができました。研修企画する側としては、研修による学びと共に医師同士の交流や経験談を語り合う場となるなど多くの実りがあったことを知り、準備は大変ながらやりがいを感じる研修会でした。今後も、毎年開催していきますので是非ご参加下さい。実践に活かせる内容となるよう準備してお待ちしています。



ロールプレイの風景

(緩和ケア専従看護師 児玉みゆき)

健康フェスタ

平成28年10月8日(土)、当院にて「健康フェスタ」を開催しました。

7月に冷牟田浩司院長が新院長として就任して初開催となる今年は、昨年11月に新外来診療管理棟が完成し、その後サービス棟がオープンして外来駐車場が整備されてから初めての開催で、正面玄関前や外来駐車場のスペースを使いオープニングセレモニーや軽食コーナー・模擬店・車両展示を行いました。

模擬店や車両展示ではお子様連れの家族に人気があり、とても大盛況でした。

また、市民のための公開講座では都城市ご当地キャラ「ぼんちくん」もかけつけ参加者と一緒にラジオ体操を行いました。

今年も外来にて測定コーナー・相談コーナー・体験コーナーなどたくさんのイベントを設け老若男女問わず賑わいました。

当日の天気予報は雨で来場者数が心配されましたが、職員の熱気が吹き飛ばしてくれたのか、終日雨が降ることはありませんでした。

これからも健康フェスタを開催することでもっと地域の皆様に安心し信頼できる病院になるよう職員一丸となり頑張ってお参ります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(庶務係長 上原直樹)



都城医療センター附属看護学校 **学校祭**

10月7日(金) 8日(土)

今年のテーマは『NEXT～総和がもたらす無限の可能性～』とし、本校70周年の節目を機にこれまで学校・病院・地域が作り上げてきた歴史を振り返りつつ、今後もよりよい都城医療センター附属看護学校を作り続けていきたいという考えのもと、企画・開催しました。

10/7の特別講演会では、宮崎大学医学部附属病院救命救急センターのセンター長である落合秀信先生に、災害現場などでの救急医療について講演を行っていただきました。日常ではなかなか学ぶことのできない貴重な講演で、新たな看護の見方や将来の方向性などにより刺激になりました。その後は学生交流会と称し、学年の垣根を超えたコミュニティ形成を目的としたドッチボール大会を催しました。この試みは初めてでしたが、今後の大切な人間関係の形成などに役立てていけるものと感じました。

10/8は都城医療センターとの協力・連携のもと新外来診療棟での開催でした。学校からはバザー・健康チェック・学校紹介・お茶会など、様々な活動を行いました。また、学校体育館ではステージ部門が中心となって、合唱や独唱、その他様々なゲームを催し、とても盛り上がりました。

自分たちだけでなく、学校の教員をはじめ都城医療センターの方々や地域住民の方々、その他学校祭を運営するうえでご協力して下さったすべての方々のおかげで、無事成功をおさめることができました。本当にありがとうございました。今後の学校での活動や、来年度以降の学校祭では今祭の経験・反省等をいかし、さらなる飛躍ができるよう邁進していききたいと思います。

(都城医療センター附属看護学校 学校祭実行委員長 横山和貴)



誓いの式を終えて

10月28日は誓いの式でした。「ナイチンゲール誓詞」と「誓いのことば」は言い終わった瞬間、空気が変わったように感じ、とても感動しました。「誓いのことば」は、みんなで話し合っただけで決めました。「笑顔」「信頼」など、考えることはみんな同じようなことで、同じ気持ちを持っているのだと思うと嬉しくなりました。誓いの式では、多くの方に祝辞を頂きました。その中で、宮崎県看護協会会長さんの「看護師は一生勉強」という言葉がとても心に残りました。私は、今まで国家試験に合格することが目標だと思っていました。しかし、看護師は進歩する医療技術を勉強したり、患者さんから学んだりしていくことが大切であることを感じました。これからも、今日誓ったことを忘れず、一生勉強を頑張り、患者さんとの関わりからたくさんを学ばせていただきたいと思います。(70回生 上之園結菜)

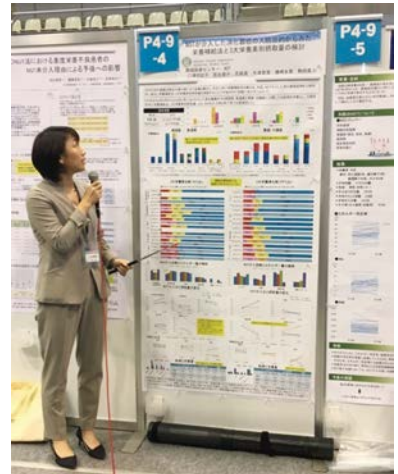


国立病院総合医学会に参加して

2016年11月11日・12日の2日間にわたり第70回国立病院総合医学会が沖縄県の沖縄コンベンションセンター、宜野湾市立体育館、ラグナガーデンホテル、カルチャーリゾートフェストーネの4つの施設を利用して開催されました。各セッションに分かれ様々な職種が各自の分野で取り組んだ成果が口演やポスターにて発表されました。

当院、栄養管理室からはポスターセッションにて2演題発表しました。1演題は、「異物混入実態調査から見えた課題と対策」について衛生管理の取り組みを発表しました。異物混入対策は、当院では特に力を入れており、毛髪実態調査やその後の対策など興味をもたれ質問もあり、今後ますます強化していく必要性を感じました。もう1演題がNST（栄養サポートチーム）専従として「NSTに介入した消化器癌の入院目的からみた栄養補給法と3大栄養素別摂取量の検討」を演題としてNST介入を行った症例を基に発表しました。様々な職種の発表は、表現方法も異なり文字の大きさ・色・グラフ・図・写真の使い方など、どの施設も趣向を凝らして発表がされており、とても刺激になり、勉強になりました。今学会での学びを今後の業務に活かして安心安全な食事提供・栄養管理に結びつけられるよう努力したいと思います。

(栄養管理室 主任栄養士 溝田記子)



教育・研修部研修案内

院内職員及び、地域医療従事者の医療の質向上のため、様々な研修を企画・運営しています。随時ご案内させていただきますので、是非ご参加ください。

研修の様子



臨床倫理研修



新生児フィジカルアセスメント研修



NST・褥瘡研修

1月の研修ご案内

1月19日	がん患者の在宅医療連携	日南病院医療管理部医療連携科 木佐貴 篤先生
-------	-------------	------------------------

連携医療機関のご紹介

医療法人 光愛会

有馬医院



院長
ありま まさてる
有馬 政輝 先生



所在地	都城市上長飯町48-1
TEL・FAX	TEL 0986-23-2610・Fax 0986-22-3726
診療科目	内科、小児科
診療時間	平日 9:00～12:00、13:30～18:00 土曜 9:00～12:00
休診日	日曜・祝日休診
病床数	一般 8床、療養 6床
備考	日本内科学会認定 総合内科専門医

明けておめでとうございます。

当院は先代が昭和23年(1948年)豊満町で開院し、昭和49年(1974年)上長飯町に移転し、私は未熟児NICU・消化器肝臓疾患・救急医療(消化器外科)での経験をへて平成13年(2001年)に院長就任し、新年を迎え2017年は就任16年目、開院69年目となります。

当時、未熟児医療では1000g以下で危険な時代に国立都城病院が世界で初めて、500g以下の低体重児を後遺症なく成長させたことは、他院NICU勤務時代、とても頼もしく高揚した記憶が鮮明にあります。

当院は代々、地域に根付いた医療をし、『0歳から100歳代まで』幅広い層を診ており、在宅・訪問・看取りもし、各種検診検査、産業医も行っております。日々の医療にて、何よりも嬉しいことは小児受診をしていた子供達が父母となり、我が子を連れて受診をするときは嬉しく励みになり、地域に根ざした医療の大事さを改めて認識し、日々精進いたしております。

認知症を罹患している方々の医療に関し、思いもよらない行動により病変し紹介した方々が記憶にあります。当院も医師一人で診ておりマンパワー不足を思いますが、貴院の存在が心強く医療



圏での地域医療連携の必要性を改めて思います。なお『地域医療連携室』には非常に助かっており、ありがとうございます。

貴院が地域医療支援・がん拠点・周産期母子医療・地域小児医療と重要な役割を果たしており、地域の期待も大きいものがありますので、今後、益々の御発展を期待いたします。



外来診療科別週間担当医当番表 独立行政法人 国立病院機構 都城医療センター

【全診療科 初診予約制】 受付時間 8:30 ~ 11:00

【平成 29 年 1 月 1 日】

Table with columns for medical department (e.g., Internal Medicine, Pediatrics, Surgery) and days of the week (Monday to Friday). It lists the names of the attending physicians for each department and day.

【その他の特殊診療】

Table listing special services such as Endoscopy Center, Gastroscopy, and Bone Density Measurement, along with their respective days and times.

※1 全診療科初診予約制となりますので、事前に診療FAX連絡票にてご連絡頂きますようお願いいたします。また各診療科の診察日以外については、急患のみ対応となります。
※2 医療機関の方へ：血液内科の初診については、事前に診療FAX連絡票と共に、最新の血液データを送ってください。
※3 皮膚科の診察時間は、火曜、木曜、金曜の9時30分～13時となっております。
※4 がんサポート外来、緩和ケア外来については、事前にごん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※5 セカンドオピニオンの受診についても、予約制となっております。がん相談支援センターまでご連絡頂きますようお願いいたします。
※6 ペインクリニックは歯科口腔外科を受診された患者様が対象となります。

【地域医療連携室・がん相談支援センター】フリーダイヤル (0120) 411-329 FAX (0986) 26-1893



独立行政法人 国立病院機構

都城医療センター

(地域がん診療連携拠点病院・ 地域周産期母子医療センター)

〒885-0014 宮崎県都城市祝吉町5033番地1

TEL/0986-23-4111(代表) FAX/0986-24-3864

E-mail/syomu-2@hosp.go.jp http://www.nho-miyakon.jp

編集発行：広報委員会